

杉野一博 選

ぬかるみのあんばい道路歩き出す

懐かしい月寒あんばいの道路 上五「雪解けの」

山本俊郎

春ならば一歩一歩と踏みしめて

上五理屈っぽい 「春の朝」

森山圭悦

山頂の灯からこぼれて花の種

取合せ自然に生まれた

杉野一博

春の雪街に流れる忌日かな

「春雪の」

滝田慶子

助手席に青年眠る烏曇

対象把握がさりげなくしっかりしている

上澤孝二

四月馬鹿狸が来るといふパン屋

四月馬鹿は強すぎるのでは

松原智津子

日本地図桜の色が染めてゆく

季節の移ろいが自然

木宮節子

人体に数値いくつの春霞

中七の表現が切なくもある

伊東次雄

春岬海難救助犬の舌

対象焦点絞りがいい

船矢美雪

さらさらと総理答弁春眠し

川柳的 下五に批評がある

木宮節子

剪定や浅葱の空をまぶしみつ

中七のイメージのいろがいい

松原智津子

ほろ苦き青春の憤い露の臺

露の臺との取合わせ面白い 中七「青春のあり」

伊東次雄

烏雲にネイルサロンの扉押す

取合わせの面白さ

船矢美雪

農水路清明の水あふれさせ

季節の動きが中七に象徴された

松原智津子

四月来る「新」の字並ぶ番組表

やはり解りすぎか

木宮節子

スルメなど炙りまつ皆既月食

「スルメなど炙り皆既月食のなか」

伊東次雄

聞く耳をなくしてしまいうクロッカス

よくある表現だが、クロッカスは納得するかどうか

船矢美雪

万愚節ひこ生まれたのしらせかな

万愚節に苦笑があるか

山本俊郎

通る人はほほえみ誘う庭の梅

中七「ほほえんでいるかに」

森山圭悦

春は曙いつしか屋号並びとり

屋号で呼びあつた昔が蘇って

杉野一博

涅槃絵の徒歩十分の案内状

中七の具体が効果的

上澤孝二

復活祭ワインレッドの心かな

心をなにか具体物にしたところ

滝田慶子

春の宵皆既月食天人

下五の表現面白い

山本俊郎

春の昼国際通りのソーキそば

沖縄旅先のスケッチ

森山圭悦

桜には間のある棘のあとの色

棘のあとが気になって

杉野一博

リラの芽や清隆の青ケプロンの青

取合せいいと思う 青の画家の存在感確か

上澤孝二

亀鳴いて鳴いていよいよ投票日

季語の効果面白い

滝田慶子